

(別表第1の3)

評価結果概要表

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3890600145
法人名	株式会社ジェイコム
事業所名	グループホーム小松の里
所在地	愛媛県西条市小松町妙口甲1番地1
自己評価作成日	平成 26 年 1 月 6 日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	※「介護サービス情報の公表」制度にて、基本情報を公表している場合のみ、ここに記載
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	平成 26 年 3 月 6 日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

・利用者様の個別の力を発揮できる支援を心がけている。 ・いつも明るい笑い声のある環境 ・旬の食材を使用した手作り料理
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

利用者の入所や退所など繰り返しがあったため、管理者は利用者の意向に沿った暮らしの実現を考えるようになり、利用者の目線に立った介護計画の作成を行い、積極的な個別支援に取り組んでいる。利用者がいかに健康に過ごしていけるかに気を配り、食事や室内環境の整備に努めている。母体が医療機関であり、協力医の受診や看護師との協力体制が整備されており、利用者は医療面で安心感がある。食事は利用者の楽しみで、美味しいものを食べてもらいたいと考えており、季節の食材や旬の食材を揃えて利用者の好みを取り入れた食事づくりを大切にしている。
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

(別表第1の2)

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目
(評価項目の構成)

Ⅰ.理念に基づく運営

Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援

Ⅲ.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

Ⅳ.その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

【記入方法】

● 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。

● 全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

※用語について

● 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
(他に「家族」に限定する項目がある)

● 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。

● 職員＝「職員」には、管理者及び非常勤職員を含みます。

● チーム＝一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

事業所名 グループホーム小松の里

(ユニット名) 東通り

記入者(管理者)

氏 名 伊藤 元栄(兵頭 恵子)

評価完了日 26 年 1 月 6 日

(別表第1)

自己評価及び外部評価表

【セル内の改行は、「Altキー」+「Enterキー」です】

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
I.理念に基づく運営				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	(自己評価) 理念を共有し、日々実践につなげている。「暖かく・さりげなく・気配り・目配り」小松の里独自の心掛けを朝夕の申し送り時に、唱和しケアに努めている。 (外部評価) 管理者は理念に沿った利用者に寄り添うケアを心がけて支援してきたが、業務に追われ漠然となっていると感じていた。2月から改善し、利用者の意向に沿った毎日できる計画を作成し、個別ケアに力を入れ始めた。また、職員も毎日の実践する目標を具体的に挙げるようになり、日々目標を意識して取り組めるよう努めている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	(自己評価) 近くの中学生が授業の一環として一緒に過ごす時間を持ったり、避難訓練の際には地区の消防団の方も参加し、一緒に訓練を行った。また、夏祭りの際には、ボランティアとしてたくさんの方の慰問もあり、一緒に楽しむことができた。 (外部評価) 事業所は自治会に未加入であるが、自治会総会へ参加したり、地域住民や青年団に事業所で開催する夏祭りの協力を得たりするなど、協力関係を築けるよう努めている。近隣住民とのつきあいは密に行われておらず、管理者は課題があると感じている。中学校の生徒との交流は続けており、学習や交流の機会以外にも中学校から備品を貸してもらするなど良好な関係ができています。	運営推進会議や防災訓練などの行事を地域住民に情報を発信していく場として活用し、近所づきあいにつながるような取組みを望みたい。また、近所づきあいをすることによって事業所の理解や防災面での安心につなげていけるような交流を期待したい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	(自己評価) 2か月に1度、広報誌を作成し近隣の家へも配っており、ホームの様子などを紹介している。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実 際、評価への取り組み状況等について報告 や話し合いを行い、そこでの意見をサービ ス向上に活かしている	(自己評価) ホームの近況報告を行い、気づいたこと等貴重な意見とし て受け止め、改めるところは改善していくよう、心掛けて いる。	
			(外部評価) 運営推進会議は利用者や家族、自治会長、民生委員、地域 住民、地域包括支援センター職員、介護相談員等の参加を 得て開催している。駐在所の警察官を呼んだ会議では、振 り込め詐欺や交通事故などの話しをしてもらい、参加者か ら地域の情報が得られる良い機会となったと好評であっ た。また、家族全員に会議への案内を行う工夫をしてお り、新しい利用者の家族にも参加してもらえるなど、参加 者が増えている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、 事業所の実情やケアサービスの取組みを積 極的に伝えながら、協力関係を築くように 取り組んでいる	(自己評価) 介護相談員の来荘や、運営推進会議に出席頂いたりして、 ホームの取り組み等報告している。	
			(外部評価) 運営推進会議は地域包括支援センター職員が参加してお り、市の情報を得ることができている。市主催のサービス 向上委員会には、市担当者や他のグループホーム等の職員 同士の意見交換が行われ有意義な会議となっている。毎月 介護相談員の訪問があり、利用者の良き相談相手となっ ている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準におけ る禁止の対象となる具体的な行為」を正し く理解しており、玄関の施錠を含めて身体 拘束をしないケアに取り組んでいる	(自己評価) 日中は施錠は行わず、自由に出入りできるようになってい る。職員が手薄な夜勤帯等は、徘徊のある方の危険回避の ため、ユニット入り口を施錠することもある。	
			(外部評価) 言葉や精神的な拘束を理解できていない職員が見受けられ た場合は、管理者やリーダーが注意し、身体拘束等の外部 研修に参加して理解してもらい、職員全員で身体拘束のな いケアを目指している。精神的に不安定な利用者には家族 や管理者、職員が相談し、精神科を受診してもらい、医師 の説明を納得したうえで薬を処方してもらうよう配慮して いる。毎月テーマを決めて勉強会を開催しており、身体拘 束をテーマにも取り入れている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 研修及びホーム内での学習会で、学ぶ機会を持っており虐待防止に努めている。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) 学ぶ機会はある、以前制度を利用していた方が入居していたが、すべての職員が理解できているかどうかはわからない。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 十分な説明を行っており、納得の上締結等行っている。	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 家族の方には茶話会や面会に来られたときに、意見をうかがうことができ、それらを反映できるよう努めている。 (外部評価) 行事等で家族が多く集まった場合は家族会を開催しているが、ほとんど運営に関する意見は聞かれないため、家族の面会時には職員から話しかけ意見を聞いたり、家族との関わりを大切にして信頼関係を築くよう努めている。家族からの相談や希望、事業所から家族への報告事項などは相談簿に記録し、職員と家族との会話を分かりやすく整理している。利用者からは、なぜ事業所を利用することになったのかの不満や日々の生活の中で細かな要望を言われることが多く、職員は傾聴しできる範囲で対応するよう努めている。	

自己評価	外部評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価) ユニット会や全体会で意見を言える場を設けている。 (外部評価) 年2回、管理者は職員との面談を行い、職員の思いや意見を聞きとるようにしている。職員からの意見や相談内容は面談相談簿に記録し、対応して解決したり運営に反映されるようにしている。毎月、法人内の施設連絡会に管理者が参加しており、事業所の報告と事業所や職員の要望を伝える機会がある。また、事業所間の職員異動は管理者と法人事務局で話し合い、職員に打診する形で進められ、職員の要望を聞いてもらえる環境となっている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	(自己評価) 個人個人で目標を設定し、向上心を持ち、クリアできるように頑張っている。	
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価) その人に合った研修を法人内・外で受けることができるが、現在は職員数に余裕がないため、あまり研修に行くことができない。	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	(自己評価) 相互研修に参加し、他施設を知ることによって良い刺激になっている。良いところは見習い、質の向上を図っている。	
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	(自己評価) 本人と話す機会を持ち、不安や要望等聞くようにしている。早く環境に慣れてもらえるよう、関係を密に取っている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等 が困っていること、不安なこと、要望等に 耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) 家族の方にも、安心していただけるように、話を伺ったり しながら、いい関係作りができるように努めている。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と 家族等が「その時」まず必要としている支 援を見極め、他のサービス利用も含めた対 応に努めている	(自己評価) 事前に情報を提供してもらい、その人に必要と思われる支 援を見極めている。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場にお かず、暮らしを共にする者同士の関係を築 いている	(自己評価) 出来ることは行ってもらい、本人の意見や意思を尊重しな がら、一緒に生活している者として接している。	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場にお かず、本人と家族の絆を大切にしながら、 共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 面会時には、最近の様子を家族に伝えている。不穏時に家 族の方に電話し、話をしてもらおうと落ち着かれる方もい る。	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人 や場所との関係が途切れないよう、支援に 努めている	(自己評価) 家族や親せき、自分の兄弟などが面会に訪れている。ま た、正月などは泊りがけで自宅へ戻られる方もいる。 (外部評価) 月に数回利用者の自宅を訪問したり近くの香園寺や行きつ けの美容室に出かけるなど、馴染みの場所や習慣が継続で きるよう支援している。家族の協力を得て買い物や神社な ど馴染みの場所へ出かけている利用者もいる。携帯電話を 持っている利用者が増えており、家族等に直接連絡をする ことが多く、馴染みの関係の継続が利用者の心の支えにも なっている。地域からの利用者には友人が良く面会に来て いる。	

自己評価	外部評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) 気の合った利用者同士を同じテーブルにしたり、利用者同士が自分の得意としていることを教え合ったり、できない人に対しては代わりにしてあげる等、支え合っている。	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) 契約終了後は、ほとんど関係がなくなっている。	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 思いや意向を把握できるよう、一人ひとりに向き合い、本人の望む暮らしに近づけるよう取り組んでいる。困難な場合は、職員間で話し合いを持ち、検討している。	
			(外部評価) 軽い介護度の利用者が増え、起床や食事時間の変更、パン食の希望など、思いや意向を言われる利用者が多くなっている。職員はコミュニケーションの取り方や支援方法を考えるようになり、利用者の今までの生活や意向に沿う支援を目指して支援している。思いの把握が困難な利用者には声かけをし、表情やしぐさを観察しながらくみ取るように心がけている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 入居前の暮らしは、情報提供書や家族の方に話を聞き把握に努めている。また、普段の何気ない会話の中から、今までの暮らしぶりが見えてくることもある。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) 生活記録を通し、1日の過ごし方や今の状態の把握をしている。また、その人のできることを見極め、継続して行えるよう対応している。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	(自己評価) 茶話会を月1回開催し、話し合いの場を持ちモニタリングを行っているが、参加する家族の方が少なく、職員間での意見のみになっていることが多い。 (外部評価) 家族の要望を書面で提出してもらい、家族の意見を介護計画に反映できるよう検討し、月1回のユニット会で話し合い作成している。生活記録には介護計画と実施内容を明記し、利用者の言葉を残すよう心がけており、モニタリングや見直しを行い、次の支援に活かしている。ユニットの利用者全員の計画を一覧表にして、職員が日々目を通して支援や生活記録記入時に意識できるよう工夫している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	(自己評価) 生活記録を通し、職員間での情報の共有をしている。介護計画に結びつくような、記録ができればいいのだが、必要なことが記録できていないことがあり、もう一度見直ししていく。	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にもまれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	(自己評価) 状況の変化に伴い、できる範囲内で支援やサービスが行えるよう、柔軟に対応している。	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	(自己評価) 中学生の清掃ボランティアや慰問等、地域の方と共同しながら暮らしている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に し、納得が得られたかかりつけ医と事業所 の関係を築きながら、適切な医療を受けら れるように支援している	(自己評価) 入居前から、母体である病院がかかりつけ医であることが 多い。月1回往診があるが、体調の悪い時は、すぐに受診で きるように支援している。	
			(外部評価) 利用者の希望するかかりつけ医を受診することができる。 ほとんどの利用者は母体病院の協力医をかかりつけ医とし ている。月1回協力医の往診があり、利用者の健康管理を している。病院での受診が必要な場合は、家族が同行支援 することが多い。また、家族に利用者の身体状況を把握し てもらうために、必ず節目で家族に同行して受診しても らっている。受診時には医師から利用者の状態等を分かり やすく説明してもらい、家族に納得して把握してもらうよ うにしている。往診や事業所で受診介助を行った場合の報 告は、毎月家族に送付する日常生活報告書で行っている。	
31		○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた 情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問 看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が 適切な受診や看護を受けられるように支援 している	(自己評価) 普段と変わったことがあれば、看護職員に相談し、指示を 仰ぎ、病院を受診したりしている。	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療でき るように、また、できるだけ早期に退院で きるように、病院関係者との情報交換や相 談に努めている。または、そうした場合に備 えて病院関係者との関係づくりを行っている。	(自己評価) 入院になった場合は、面会に行ったり情報交換を行ってい る。	
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方につい て、早い段階から本人・家族等と話し合 いを行い、事業所でできることを十分に説明 しながら方針を共有し、地域の関係者と共 にチームで支援に取り組んでいる	(自己評価) ターミナルケアは行っていない。重度化した場合はほとん ど病院へ入院している。	
			(外部評価) 事業所ではターミナルケアを行わない方針であることを、 利用開始前に利用者や家族に説明している。また、状態の 変化があった場合には、その都度家族に説明している。利 用者が重い介護度になると、他施設への転居などを家族に 説明し、入所申し込みなどの支援をしている。利用者の病 状が悪化した場合は、母体病院等へ入院してもらっている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) ホームに消防士を招き、ほとんどの職員が救命救急講習を行ったが、いざとなると上手に行えるかはわからない。	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 消防避難訓練は年2回行い、風水害避難訓練も行った。消防避難訓練の際は、近隣の消防団の方や運営推進会議のメンバーにも参加していただいた。 (外部評価) 年2回避難訓練を実施しており、地域住民や消防団員に参加してもらい一緒に訓練をしている。消防団員などから避難経路のアドバイスや訓練の評価をもらい、新たに非常口を設置するなど改善に活かしている。地域の消防団は協力的であり、緊急時に迅速に連絡できるよう消防団員の名簿をもらったり、市消防本部への協力も呼びかけてくれたりしている。事業所では地域住民にも声をかけ、救命講習と事業所見学を実施しており、参加者から「よく分かる」との声をもらい、管理者は今後も継続したいと考えている。また、水やパンなどの備蓄品を用意し、災害時に備えている。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) 言葉かけには十分注意しているが、つい強い口調で言ってしまうことがあったり、大きな声で排泄の有無を聞いたりしていることがある。 (外部評価) 職員は利用者と長くつきあい、家族のような馴染みの関係を築いて行けるよう支援するうえでも、接し方には気を付けているが、職員間に格差があり十分な対応ができていない場合がある。ユニットリーダーは、職員が着替えや排泄など声かけをせず支援している場合は、その都度注意するなど指導している。研修だけでは利用者の尊厳の確保やプライバシーの配慮など、職員に身に付くのが難しいこともあり、管理者はできる限りユニットに入って指導するよう努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) どちらかを選択できるような声かけをしたり、本人が希望を言えるような雰囲気作りを心掛けるようにしている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) その人の生活のペースに合わせられるよう、どのようにしたいのか聞きながらケアしたり、そっと見守ったりしている。時間に追われ、職員のペースになりがちなのもあり、気をつけていく。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) その人のこだわりを残しながら、季節に合った装いをしてもらっている。	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 食事の下ごしらえや、味付け、盛り付け、食器洗浄まで一緒に行っている。職員も同じテーブルで、同じ食事を食べている。 (外部評価) 献立は利用者の好きなものや季節の食材を取り入れ、ユニット毎に作成し調理している。おやつも週2～3回は手作りしている。畑で採れた野菜を使ったりオードブルを取ったり、鯖(サワラ)の解体ショーを行うなど、利用者が目で見えて食事を楽しむことや、新鮮でおいしい食事ができるよう工夫をしている。利用者と職員が会話を楽しみながら、同じ食事をしている。調査当日には、里芋の皮を剥いたり食器を洗ったりする利用者の姿が見られ、味付けや食器洗いなど利用者にしてできることを手伝ってもらっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 嚥下状態の悪い人は、ミキサー食にしたり、水分をあまり摂ってくれない人には、ゼリーや甘い飲み物で対応している。覚醒状態の良い時に食事ができるよう、時間をずらして食事することもある。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 毎食後、口腔ケアを行っている。口臭がある人には、洗口液を使ってもらっている。毎日、義歯洗浄剤を使用し、清潔を保っている。	

自己評価	外部評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	(自己評価) 排泄チェック表を記入しており、その人のパターンを知ることができる。時間ごと誘導しているが、中には声かけしてもなかなかトイレまで言ってくれない方もいる。	
			(外部評価) 時間を見てトイレ誘導を行い、トイレでの排泄ができるよう支援している。夜間はポータブルトイレを使用している利用者もあり、身体状況に合わせた排泄の支援を行っている。利用者の排便コントロールは難しく、運動や食事、お茶などを活用しながら、自然な排泄ができるよう努めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	(自己評価) 便秘気味の方は、緩下剤を服用したり、毎朝センナ茶を飲用し、排便を促している。なかなか排便のない方には、センナ茶の濃さや量で調整している。	
			(外部評価)	
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	(自己評価) 毎日、お風呂を沸かしている。ほぼ毎日、入浴される方や2日に1度と決めている方もいる。たまに、仲の良い物同士が一緒に入ることもある。	
			(外部評価) 週4日を基本として入浴することができる。利用者の希望に応じて、毎日入浴している利用者もいる。気持ちよく入浴できるよう職員は声かけには気を付け、入浴剤を使用して利用者を楽しんでもらえるよう工夫している。重度で湯船に浸かれない利用者は、シャワー浴をしながら足浴し、寒くならないよう配慮している。入浴が苦手な利用者には、本人が入浴を好まない意向を家族にも説明し、汚れやすいところは清拭するなど清潔保持に努めている。また、日中にリビングでテレビを見ながら足浴とフットマッサージを行っており、リラックスできる時間を過ごせるよう工夫している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	(自己評価) 日中も部屋で休みたい方には、休んでもらったり、毎日、夜8時過ぎまでリビングやこたつで眠気が出るまで過ごす方もいる。	
			(外部評価)	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 処方箋をファイルしており、いつでも確認できるようにしている。誤薬がないよう、服薬時は3度の確認をしている。薬が変更になった時などは、体調に変化がないか様子観察している。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) 毎日、午前中レクリエーションを行っている。歌の好きな方はカラオケをしたり、新聞を読むことが日課になっている方には読んでもらっている。裁縫や食事の下ごしらえ、洗濯物干し等本人が得意としていることを行ってもらっている。	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) 毎月一回、家族と一緒にお寺詣りに行かれる方や、家族の送り迎えで、行きつけの美容室へ行く方もいる。	
			(外部評価) 日頃から散歩したり中庭での外気浴をするなど、利用者が外出できる機会を設けている。関連施設の車両を借りることができ、利用者全員でドライブや外食に出かけられるよう支援している。天気の良い日には、お弁当を持って公園に出かけることもある。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) お金を持つことの大切さは理解しているが、所持している方はおらず、ホームで立て替えをしている。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 携帯電話を所持している方は、自分で好きな時に電話している。また、電話して欲しいと訴えのある方には、スタッフが電話をかけ、話をしてもらっている。	

自己評価	外部評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 室温は日に3度測定しており、適温になるようにエアコン等で調節している。冬場は加湿器を使用し、湿度にも気をつけている。直射日光が当たらないよう、夏は窓にすだれを取り付けている。 (外部評価) 玄関やリビングには生け花が飾られ、自然の華やかさと季節を感じることができる。利用者が気兼ねなく休めるように、いすやソファの配置には気を付けている。こたつを置いているユニットには、夜間に利用者同士がおしゃべりを楽しみながら寝るまでの時間を過ごすことがある。リビングにはカラオケ機材があり、毎日歌うことを楽しみとしている利用者もいる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	(自己評価) 寒い時期は、皆でこたつに入って過ごしたり、ロビーや廊下、リビングに設置しているソファでくつろいだりしている。中庭やウッドデッキにはベンチもあり、思い思いに過ごせる空間がある。	
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 家で使っていたタンスや応接セットを持ち込んだり、自宅で書いていた日記帳を持って来きている方や、家族の写真を壁に飾っている方もいる。 (外部評価) ベッドは利用者の身体状況に合わせて、家具調ベッドとギャッジベッドとを使い分けている。利用者は自宅から馴染みの家具を持ち込み、好みの配置をして利用者の思い思いの空間づくりをしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	(自己評価) 建物はバリアフリーで、廊下や風呂場、トイレにも手すりを設置している。居室の入り口には、名前入りの色紙を貼っており、自分の部屋だと認識出来る。	

(別表第1の3)

評価結果概要表

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3890600145
法人名	株式会社ジェイコム
事業所名	グループホーム小松の里
所在地	愛媛県西条市小松町妙口1番地1
自己評価作成日	平成 26 年 1 月 6 日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	※「介護サービス情報の公表」制度にて、基本情報を公表している場合のみ、ここに記載
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	平成 26 年 3 月 6 日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

・外出や行事に力を入れ支援している。 ・毎月のサービス担当者会に御家族様に参加していただき意見を取り入れている。 ・毎年、小松中学生が小松タイムとして6月から11月に授業の一環として訪問がある。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

利用者の入所や退所など繰り返しがあったため、管理者は利用者の意向に沿った暮らしの実現を考えるようになり、利用者の目線に立った介護計画の作成を行い、積極的な個別支援に取り組んでいる。利用者がいかに健康に過ごしていけるかに気を配り、食事や室内環境の整備に努めている。母体が医療機関であり、協力医の受診や看護師との協力体制が整備されており、利用者は医療面で安心感がある。食事は利用者の楽しみで、美味しいものを食べてもらいたいと考えており、季節の食材や旬の食材を揃えて利用者の好みを取り入れた食事づくりを大切にしている。
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

(別表第1の2)

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目
(評価項目の構成)

Ⅰ.理念に基づく運営

Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援

Ⅲ.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

Ⅳ.その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

【記入方法】

● 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。

● 全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

※用語について

● 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
(他に「家族」に限定する項目がある)

● 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。

● 職員＝「職員」には、管理者及び非常勤職員を含みます。

● チーム＝一人の人の関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

事業所名 グループホーム小松の里

(ユニット名) 西通り

記入者(管理者)

氏 名 守 真理(兵頭 恵子)

評価完了日 26 年 1 月 6 日

(別表第1)

自己評価及び外部評価表

【セル内の改行は、「Altキー」+「Enterキー」です】

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
I.理念に基づく運営				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	(自己評価) ホームや独自の理念がありロビーや各事務所に提示しており朝、夕の申し送り時に復唱し共有と日々の取り組みに努めている。 (外部評価) 管理者は理念に沿った利用者に寄り添うケアを心がけて支援してきたが、業務に追われ漠然となっていると感じていた。2月から改善し、利用者の意向に沿った毎日できる計画を作成し、個別ケアに力を入れ始めた。また、職員も毎日の実践する目標を具体的に挙げるようになり、日々目標を意識して取り組めるよう努めている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	(自己評価) 以前に比べ地域との付き合いは減ったが、案内状等配布し行事の参加を呼びかけている。また、近隣の中学校と福祉体験学習・レクリエーションを通して交流をしている。 (外部評価) 事業所は自治会に未加入であるが、自治会総会へ参加したり、地域住民や青年団に事業所で開催する夏祭りの協力を得たりするなど、協力関係を築けるよう努めている。近隣住民とのつきあいは密に行われておらず、管理者は課題があると感じている。中学校の生徒との交流は続けており、学習や交流の機会以外にも中学校から備品を貸してもらうなど良好な関係ができています。	運営推進会議や防災訓練などの行事を地域住民に情報を発信していく場として活用し、近所づきあいにつながるような取組を望みたい。また、近所づきあいをすることによって事業所の理解や防災面での安心につなげていけるような交流を期待したい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	(自己評価) 地域の人々に向けて生かす事は少なくなっているが、施設内での行事の取り組みについては、定期的に広報誌を作成し地域の方々に配布している。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実 際、評価への取り組み状況等について報告 や話し合いを行い、そこでの意見をサービ ス向上に活かしている	(自己評価) 運営推進会議では現状報告を行い、意見交換を参考にし サービス向上に活かしている。	
			(外部評価) 運営推進会議は利用者や家族、自治会長、民生委員、地域 住民、地域包括支援センター職員、介護相談員等の参加を 得て開催している。駐在所の警察官を呼んだ会議では、振 り込め詐欺や交通事故などの話しをしてもらい、参加者か ら地域の情報が得られる良い機会となったと好評であっ た。また、家族全員に会議への案内を行う工夫をしてお り、新しい利用者の家族にも参加してもらえるなど、参加 者が増えている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、 事業所の実情やケアサービスの取組みを積 極的に伝えながら、協力関係を築くように 取り組んでいる	(自己評価) 介護相談員の来荘があり、利用者様と関わりを持って頂く 事により協力関係を築けるよう取り組んでいる。	
			(外部評価) 運営推進会議は地域包括支援センター職員が参加してお り、市の情報を得ることができている。市主催のサービ ス向上委員会には、市担当者や他のグループホーム等の職員 同士の意見交換が行われ有意義な会議となっている。毎月 介護相談員の訪問があり、利用者の良き相談相手となっ ている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準におけ る禁止の対象となる具体的な行為」を正し く理解しており、玄関の施錠を含めて身体 拘束をしないケアに取り組んでいる	(自己評価) 身体拘束の具体的な行為については理解しているが、日中 は防犯の為に、各居室の窓は、補助鍵にて施錠している。	
			(外部評価) 言葉や精神的な拘束を理解できていない職員が見受けられ た場合は、管理者やリーダーが注意し、身体拘束等の外部 研修に参加して理解してもらい、職員全員で身体拘束のな いケアを目指している。精神的に不安定な利用者には家族 や管理者、職員が相談し、精神科を受診してもらい、医師 の説明を納得したうえで薬を処方してもらうよう配慮して いる。毎月テーマを決めて勉強会を開催しており、身体拘 束をテーマにも取り入れている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 研修・ホームでの勉強にて学ぶ機会を持ち、職員全体で注意、防止に努めている。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) 研修で学ぶ事ができ、お互いに発表の場を通じて学び活用している。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 管理者より全て説明を行っている。	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 担当者会議、運営推進会議、意見箱、ホームページ等より意見を受け、記録に残し、管理者、職員に報告し運営に反映出来るよう努めている。 (外部評価) 行事等で家族が多く集まった場合は家族会を開催しているが、ほとんど運営に関する意見は聞かれないため、家族の面会時には職員から話しかけ意見を聞いたり、家族との関わりを大切にして信頼関係を築くよう努めている。家族からの相談や希望、事業所から家族への報告事項などは相談簿に記録し、職員と家族との会話を分かりやすく整理している。利用者からは、なぜ事業所を利用することになったのかの不満や日々の生活の中で細かな要望を言われることが多く、職員は傾聴しできる範囲で対応するよう努めている。	

自己評価	外部評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価) 面接やユニット会、申し送り時などに意見を述べる機会があり代表者や管理者はいつでも聞くことができる体制である。 (外部評価) 年2回、管理者は職員との面談を行い、職員の思いや意見を聞きとるようにしている。職員からの意見や相談内容は面談相談簿に記録し、対応して解決したり運営に反映されるようにしている。毎月、法人内の施設連絡会に管理者が参加しており、事業所の報告と事業所や職員の要望を伝える機会がある。また、事業所間の職員異動は管理者と法人事務局で話し合い、職員に打診する形で進められ、職員の要望を聞いてもらえる環境となっている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	(自己評価) 目標を立て自己評価を行っている。 また、管理者と年に数回面接を行うなどして、向上心を持って働きかけるよう努めている。	
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価) 個々にあった研修、希望した研修を受ける機会がある。 月一回の勉強会、研修報告などを通してスキルアップできる。	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	(自己評価) 広報誌や相互研修、学習発表会などを通して向上に努めている。	
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	(自己評価) 本人様の気持ちを受けとめたり、本人様の声に傾聴しながら相手を理解し、関係づくりに努めている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) 家族様と面会し、直接話を聞く中で困っている事などをくみとり理解し安心してサービス利用出来るよう、関係づくりに努めている。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) 本人様、家族様の要望を聞き、ユニット会で話し合い都度アセスメント行ってその方に必要か考えて行動している。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価) 一緒に過ごし関わっていく中で、学び支えあう。人生の先輩であるという事を意識し関係を築いている。	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 面会時には近況説明を行ったり、サービス担当者会議で話す場を持っているが関わりの無い家族様もいる。	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) 携帯を所有している方が増えている。 スタッフの入れ変わりが多く、認知症の方の特徴を考えるとマイナスになっている。 (外部評価) 月に数回利用者の自宅を訪問したり近くの香園寺や行きつけの美容室に出かけるなど、馴染みの場所や習慣が継続できるよう支援している。家族の協力を得て買い物や神社など馴染みの場所へ出かけている利用者もいる。携帯電話を持っている利用者が増えており、家族等に直接連絡をすることが多く、馴染みの関係の継続が利用者の心の支えにもなっている。地域からの利用者には友人が良く面会に来て	

自己評価	外部評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) 気の合う利用者様同士が会話をしたり、行事、家事を行いながら、関わりを持って生活している。	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) 契約終了後の関わりはあまりない。	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 個々の思いを尊重し意向を把握している。 困難な場合でも家族様と相談しながら検討していく。	
			(外部評価) 軽い介護度の利用者が増え、起床や食事時間の変更、パン食の希望など、思いや意向を言われる利用者が多くなっている。職員はコミュニケーションの取り方や支援方法を考えるようになり、利用者の今までの生活や意向に沿う支援を目指して支援している。思いの把握が困難な利用者には声かけをし、表情やしぐさを観察しながらくみ取るように心がけている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 入居前の情報はある程度もらえている。 入居後は本人、家族様との会話や日々の生活の中で捉えられるよう努めている。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) 個々の1日の過ごし方、状態を観察し、生活介護記録、日誌にて現状把握。共有できる。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	(自己評価) サービス担当者会議を月1回行い、家族様にも参加して頂いている。 本人、家族様の意見を考慮し、話し合い、作成、変化に応じて臨機応変な見直しをする。 (外部評価) 家族の要望を書面で提出してもらい、家族の意見を介護計画に反映できるよう検討し、月1回のユニット会で話し合い作成している。生活記録には介護計画と実施内容を明記し、利用者の言葉を残すよう心がけており、モニタリングや見直しを行い、次の支援に活かしている。ユニットの利用者全員の計画を一覧表にして、職員が日々目を通して支援や生活記録記入時に意識できるよう工夫している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	(自己評価) 個別記録に実践だけを記入するのではなく、もう少し結果や、職員の気づきを多く記入しておくで見直しの時に活かせる。	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	(自己評価) スタッフも限られている為、十分な対応は出来ていないが都度話し合いながら、意見を取り入れ柔軟なサービスが提供出来るよう取り組んでいる。	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	(自己評価) 消防、理美容院、ボランティア等協働しながら、暮らしの支援を行っている。また、近くの神社にお参りに行ったり、スーパーへ買物に行く機会を設けたりと暮らしの中で楽しめるように支援している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に し、納得が得られたかかりつけ医と事業所 の関係を築きながら、適切な医療を受けら れるように支援している	(自己評価) 本人様と家族様の同意の上、事業所の協力、医療関係がか かりつけ医であり定期的に往診がある。 状況に応じて必要な診療科目の受診もできる。	
			(外部評価) 利用者の希望するかかりつけ医を受診することができる。 ほとんどの利用者は母体病院の協力医をかかりつけ医とし ている。月1回協力医の往診があり、利用者の健康管理を している。病院での受診が必要な場合は、家族が同行支援 することが多い。また、家族に利用者の身体状況を把握し てもらうために、必ず節目で家族に同行して受診しても らっている。受診時には医師から利用者の状態等を分かり やすく説明してもらい、家族に納得して把握してもらうよ うにしている。往診や事業所で受診介助を行った場合の報 告は、毎月家族に送付する日常生活報告書で行っている。	
31		○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた 情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問 看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が 適切な受診や看護を受けられるように支援 している	(自己評価) バイタル、体調の変化の気づき、職員同士で話し合い、何 かあれば施設長に連絡し、受診やドクターの指示が受けら れる。 最近、看護師が入ってきた為、相談して助言をもらうよう に心掛ける。	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療でき るように、また、できるだけ早期に退院で きるように、病院関係者との情報交換や相談 に努めている。または、そうした場合に備 えて病院関係者との関係づくりを行っている。	(自己評価) 入院した際には定期的に病院へ行き、状態の把握に努めて いる。	
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支 援 重度化した場合や終末期のあり方につい て、早い段階から本人・家族等と話し合 いを行い、事業所でできることを十分に説明 しながら方針を共有し、地域の関係者と共 にチームで支援に取り組んでいる	(自己評価) 週末期ケアは行って無いが生活が可能な限り、支援に努め ている。 変化することに備え、他機関へ申請されている方もいる。	
			(外部評価) 事業所ではターミナルケアを行わない方針であることを、 利用開始前に利用者や家族に説明している。また、状態の 変化があった場合には、その都度家族に説明している。利 用者が重い介護度になると、他施設への転居などを家族に 説明し、入所申し込みなどの支援をしている。利用者の病 状が悪化した場合は、母体病院等へ入院してもらっている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) 救命救急講習、勉強会にて学び、知識、技術を得ている。	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 防火、水害避難訓練が定期的実施され、備蓄の準備が整っているが、いざという時、訓練と同じように動けるか不安はある。 (外部評価) 年2回避難訓練を実施しており、地域住民や消防団員に参加してもらい一緒に訓練をしている。消防団員などから避難経路のアドバイスや訓練の評価をもらい、新たに非常口を設置するなど改善に活かしている。地域の消防団は協力的であり、緊急時に迅速に連絡できるよう消防団員の名簿をもらったり、市消防本部への協力も呼びかけてくれたりしている。事業所では地域住民にも声をかけ、救命講習と事業所見学を実施しており、参加者から「よく分かる」との声をもらい、管理者は今後も継続したいと考えている。また、水やパンなどの備蓄品を用意し、災害時に備えている。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) 尊厳と権利を守る権利を守る基本を念頭においてある。深く関わりを持つことにより、慣れ慣れしくなっていたりする事があり、反省点である。 (外部評価) 職員は利用者と長くつきあい、家族のような馴染みの関係を築いて行けるよう支援するうえでも、接し方には気を付けているが、職員間に格差があり十分な対応ができていない場合がある。ユニットリーダーは、職員が着替えや排泄など声かけをせず支援している場合は、その都度注意するなど指導している。研修だけでは利用者の尊厳の確保やプライバシーの配慮など、職員に身に付くのが難しいこともあり、管理者はできる限りユニットに入って指導するよう努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) 自己決定できるような声かけを、心掛けている。意思を伝えられない利用者様に対しても、声かけ、表情から本人様が少しでもできるように努めている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 本人様の意思や希望を聞き取り、個々に合わせて過ごせるように、努めている。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) 入浴時など衣類の選択をスタッフと共に行って頂き、好みの洋服が着用できるよう支援している。	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 食材の下ごしらえなどを、利用者様と一緒にを行い、同じメニューと一緒に食べながらコミュニケーションを図っている。お誕生日には希望の献立を取り入れている。 (外部評価) 献立は利用者の好きなものや季節の食材を取り入れ、ユニット毎に作成し調理している。おやつも週2～3回は手作りしている。畑で採れた野菜を使ったりオードブルを取ったり、鯖（サワラ）の解体ショーを行うなど、利用者が目で見て食事を楽しむことや、新鮮でおいしい食事ができるよう工夫をしている。利用者と職員が会話を楽しみながら、同じ食事をしている。調査当日には、里芋の皮を剥いたり食器を洗ったりする利用者の姿が見られ、味付けや食器洗いなど利用者にとできることを手伝ってもらっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 個々に合わせて食事量を調節している。 食事、水分チェック表があり、確認でき 水分不足の方には好みの物にて補えるようにしている。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 毎食後、それぞれの口腔内の状態に合わせた、口腔ケアの見守り、介助を行っている。 声かけ行くと怒る方も居る為、出来ないこともあるが必ず声掛けは行っている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	(自己評価) 個々の排泄パターンを把握できるように、トイレの回数や間隔を記録に残し、気持ちよく排泄できるように支援している。 (外部評価) 時間を見てトイレ誘導を行い、トイレでの排泄ができるよう支援している。夜間はポータブルトイレを使用している利用者もあり、身体状況に合わせた排泄の支援を行っている。利用者の排便コントロールは難しく、運動や食事、お茶などを活用しながら、自然な排泄ができるよう努めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	(自己評価) 個々に合わせてセンナ茶飲用している。量と濃度で自然排便を促している。もう少し運動や食物繊維の多い食品を取り入れるなど、工夫していきたい。	
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	(自己評価) スタッフ不足等、こちらの都合により入浴制限されてしまい、以前のように毎日入浴できる状況には無い。短い時間中、時間やタイミングを合わせれるよう努めている。 (外部評価) 週4日を基本として入浴することができる。利用者の希望に応じて、毎日入浴している利用者もいる。気持ちよく入浴できるよう職員は声かけには気を付け、入浴剤を使用して利用者を楽しんでもらえるよう工夫している。重度で湯船に浸かれない利用者は、シャワー浴をしながら足浴し、寒くならないよう配慮している。入浴が苦手な利用者には、本人が入浴を好まない意向を家族にも説明し、汚れやすいところは清拭するなど清潔保持に努めている。また、日中にリビングでテレビを見ながら足浴とフットマッサージを行っており、リラックスできる時間を過ごせるよう工夫している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	(自己評価) 日中でも夜間状態や体調に合わせ利用者様に声掛けをするなどして居室で休めるように努めている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) すべての職員が一人一人の薬について把握できていないと思われるが、処方箋があり、いつでも確認できる。 飲み忘れ誤薬を防ぐ為、ケースに振り分けている。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) 家事業務など一人ひとりにあった役割や、散歩やレクを取り入れ気分転換できるよう支援している。	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) 職員不足により難しいところではあるが、季節事に「ぶどう狩り」「紅葉狩り」「花見」などに出掛けたりと楽しみを感じて頂けるよう努めている。 (外部評価) 日頃から散歩したり中庭での外気浴をするなど、利用者が外出できる機会を設けている。関連施設の車両を借りることができ、利用者全員でドライブや外食に出かけられるよう支援している。天気の良い日には、お弁当を持って公園に出かけることもある。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 家族様が預けたお金を本人様が自由に使えるよう支援に努めている。定期的に所持金をチェックしている。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 希望により掛けたり、受けたり、支援をしている。 携帯を所持している方もいる。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) リビングには季節の花を飾ったり、毎月利用者様と一緒に作成したカレンダーを貼るなどしている。 温湿計、加湿器を設置し空調の配慮を行っている。	
			(外部評価) 玄関やリビングには生け花が飾られ、自然の華やかさと季節を感じることができる。利用者が気兼ねなく休めるように、いすやソファの配置には気を付けている。こたつを置いているユニットには、夜間に利用者同士がおしゃべりを楽しみながら寝るまでの時間を過ごすことがある。リビングにはカラオケ機材があり、毎日歌うことを楽しみとしている利用者もいる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	(自己評価) 自由に居室にて休める時間を設けたり、和室、中庭、個々に過ごせる場所がある。	
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 自室には、自宅で使っていた物を持ち込み、本人様が好む物を飾ったりと居心地良く過ごせる。	
			(外部評価) ベッドは利用者の身体状況に合わせて、家具調ベッドとギャッジベッドとを使い分けている。利用者は自宅から馴染みの家具を持ち込み、好みの配置をして利用者の思い思いの空間づくりをしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	(自己評価) 手すり設置、バリアフリーである。 一人ひとり居室入り口に名札がありトイレにも目印がある。	

(別表第1の3)

評価結果概要表

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3890600145
法人名	株式会社ジェイコム
事業所名	グループホーム小松の里
所在地	愛媛県西条市小松町妙口1番地1
自己評価作成日	平成 26 年 1 月 6 日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	※「介護サービス情報の公表」制度にて、基本情報を公表している場合のみ、ここに記載
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	平成 26 年 3 月 6 日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

・母体が病院であり、全面的な医療支援がスピーディに支援できる。 ・利用者の声に耳を傾け、思いや希望を把握するケアに力を入れている。 ・同じ時間を共に過ごし、喜怒哀楽を共に感じられるような関係づくりを目指している。 ・季節の行事やイベントに職員と利用者が共に楽しめるように支援している。 ・職員は気持ちよく挨拶し、明るく楽しく仕事できるよう取り組んでいる。 ・理念を理解し、実践し、ケアに活かす努力をしている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

利用者の入所や退所など繰り返しがあったため、管理者は利用者の意向に沿った暮らしの実現を考えるようになり、利用者の目線に立った介護計画の作成を行い、積極的な個別支援に取り組んでいる。利用者がいかに健康に過ごしていけるかに気を配り、食事や室内環境の整備に努めている。母体が医療機関であり、協力医の受診や看護師との協力体制が整備されており、利用者は医療面で安心感がある。食事は利用者の楽しみで、美味しいものを食べてもらいたいと考えており、季節の食材や旬の食材を揃えて利用者の好みを取り入れた食事づくりを大切にしている。
--

Ⅴ. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します							
項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族の2/3くらいと
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある				2. 数日に1回程度
			3. たまにある				3. たまに
			4. ほとんどない				4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 少しずつ増えている
			3. 利用者の1/3くらいが				3. あまり増えていない
			4. ほとんどいない				4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が				
			2. 利用者の2/3くらいが				
			3. 利用者の1/3くらいが				
			4. ほとんどいない				

(別表第1の2)

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目
(評価項目の構成)

Ⅰ.理念に基づく運営

Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援

Ⅲ.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

Ⅳ.その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

【記入方法】

● 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。

● 全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

※用語について

● 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
(他に「家族」に限定する項目がある)

● 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。

● 職員＝「職員」には、管理者及び非常勤職員を含みます。

● チーム＝一人の人の関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取り組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

事業所名 グループホーム小松の里

(ユニット名) 上通り

記入者(管理者)

氏 名 愛久澤剛史(兵頭 恵子)

評価完了日 26 年 1 月 6 日

(別表第1)

自己評価及び外部評価表

【セル内の改行は、「Altキー」+「Enterキー」です】

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
I.理念に基づく運営				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	(自己評価) 「温かく、さり気なく、気配りと目配り」という理念を掲げ朝夕の申し送り時において、参加職員全員が復唱している。又、各ユニット、共有スペースに掲げいつでも目にすることが出来るようにしている。 (外部評価) 管理者は理念に沿った利用者に寄り添うケアを心がけて支援してきたが、業務に追われ漠然となっていると感じていた。2月から改善し、利用者の意向に沿った毎日できる計画を作成し、個別ケアに力を入れ始めた。また、職員も毎日の実践する目標を具体的に挙げるようになり、日々目標を意識して取り組めるよう努めている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	(自己評価) 日常的ではないが、行事の時や避難訓練において地域住民に呼びかけ参加してもらっている。 (外部評価) 事業所は自治会に未加入であるが、自治会総会へ参加したり、地域住民や青年団に事業所で開催する夏祭りの協力を得たりするなど、協力関係を築けるよう努めている。近隣住民とのつきあいは密に行われておらず、管理者は課題があると感じている。中学校の生徒との交流は続けており、学習や交流の機会以外にも中学校から備品を貸してもらうなど良好な関係ができています。	運営推進会議や防災訓練などの行事を地域住民に情報を発信していく場として活用し、近所づきあいにつながるような取組みを望みたい。また、近所づきあいをすることによって事業所の理解や防災面での安心につなげていけるような交流を期待したい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	(自己評価) 実績はあるものの、地域貢献や事業所の地域への積極的参加は出来ていない。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実 際、評価への取り組み状況等について報告 や話し合いを行い、そこでの意見をサービ ス向上に活かしている	(自己評価) 2月毎に開催し、事業所の取り組みや現況を報告し、幅広く意見交換出来ている。指摘事項や運営のヒントになる意見は、サービス向上に活かす努力は都度行っている。	
			(外部評価) 運営推進会議は利用者や家族、自治会長、民生委員、地域住民、地域包括支援センター職員、介護相談員等の参加を得て開催している。駐在所の警察官を呼んだ会議では、振り込め詐欺や交通事故などの話しをしてもらい、参加者から地域の情報が得られる良い機会となったと好評であった。また、家族全員に会議への案内を行う工夫をしており、新しい利用者の家族にも参加してもらえるなど、参加者が増えている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	(自己評価) 介護相談委員が毎月来荘しており、運営推進会議において市の担当者へ取り組みの報告や、アドバイスを頂いている。	
			(外部評価) 運営推進会議は地域包括支援センター職員が参加しており、市の情報を得ることができている。市主催のサービス向上委員会には、市担当者や他のグループホーム等の職員同士の意見交換が行われ有意義な会議となっている。毎月介護相談員の訪問があり、利用者の良き相談相手となっている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	(自己評価) 施錠に関しては、必要最低限の安全を確保する為に夜間の施錠及び、ユニットの施錠を行っているが、常時行っているわけではない。ただ、必要がないのに施錠している場合もあり、施錠が身体拘束につながる行為と認識が薄い職員もあり、教育が必要と感じている。	
			(外部評価) 言葉や精神的な拘束を理解できていない職員が見受けられた場合は、管理者やリーダーが注意し、身体拘束等の外部研修に参加して理解してもらい、職員全員で身体拘束のないケアを目指している。精神的に不安定な利用者には家族や管理者、職員が相談し、精神科を受診してもらい、医師の説明を納得したうえで薬を処方してもらうよう配慮している。毎月テーマを決めて勉強会を開催しており、身体拘束をテーマにも取り入れている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 各研修や勉強会にて取り上げ、学ぶ機会を設けている。どのような行為が虐待になるのか職員は理解しており、防止に努めている。ただ、その時の感情に流され言葉がキツくなる職員もあり、認識不足な職員もいる。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) 制度を利用されている方は過去にはおられた。各研修の参加、勉強会の場において学ぶ機会があり、理解に努めている。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 契約締結以前より十分に話し合い、利用者及び家族の不安や疑問を尋ね、理解に努めてからのサービス利用を行っている。	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) サービス担当者会議の場や、面会時において幅広い意見や要望を受け入れ、理解に努め運営に反映している。またこちらから意見を求める姿勢を表し、努力している。 (外部評価) 行事等で家族が多く集まった場合は家族会を開催しているが、ほとんど運営に関する意見は聞かれないため、家族の面会時には職員から話しかけ意見を聞いたり、家族との関わりを大切にして信頼関係を築くよう努めている。家族からの相談や希望、事業所から家族への報告事項などは相談簿に記録し、職員と家族との会話を分かりやすく整理している。利用者からは、なぜ事業所を利用することになったのかの不満や日々の生活の中で細かな要望を言われることが多く、職員は傾聴しできる範囲で対応するよう努めている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価) 毎月の勉強会、ユニット会において職員の意見を聞き出す努力は行っているものの、率直な意見提案を聞き出す事は、正直出来ていないと感じている。 (外部評価) 年2回、管理者は職員との面談を行い、職員の思いや意見を聞きとるようにしている。職員からの意見や相談内容は面談相談簿に記録し、対応して解決したり運営に反映されるようにしている。毎月、法人内の施設連絡会に管理者が参加しており、事業所の報告と事業所や職員の要望を伝える機会がある。また、事業所間の職員異動は管理者と法人事務局で話し合い、職員に打診する形で進められ、職員の要望を聞いてもらえる環境となっている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	(自己評価) 職員は、各自年間の個人目標を設定し、目的意識を持って業務に携わっている。新人職員には、段階を踏んだ職務トレーニングをマニュアル化しそれに添って働いている。	
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価) それぞれの勤務実績に合わせ、内外の各研修に参加しており、かつ資格習得には勉強会の参加などもあり、無理の無いようトレーニング出来る環境が整備されている。	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	(自己評価) 相互研修の参加や、社内の各種会議が定期的開催されており、事業所間の訪問や交流を行っている。	
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	(自己評価) サービス利用前から本人を交えた面談や施設見学を通して、話を聴く機会を設け顔見知りの関係を築けるように務めている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) サービス利用前から面談や施設見学をすすめ、要望等に耳を傾けている。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) グループ内の他の事業所と連携を常に取り、グループホーム以外の選択肢も含めたサービス利用も提案している。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価) 介護する側、される側の垣根を超え同等の立場に立つてのケアを一つの目標としている。ただ、場合によって日々の業務に追われ、業務優先になってしまう場合がある。	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 毎月の報告書や、面会時において毎日の生活の様子を報告したり、御自分の携帯電話にて直接家族と話しをされている方もいる。	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) ごくたまに知人の面会があつたりするが、殆どが家族のみの面会となっている。意思表示、決定出来る能力を要する方が少なく、十分な支援は行えていない。 (外部評価) 月に数回利用者の自宅を訪問したり近くの香園寺や行きつけの美容室に出かけるなど、馴染みの場所や習慣が継続できるよう支援している。家族の協力を得て買い物や神社など馴染みの場所へ出かけている利用者もいる。携帯電話を持っている利用者が増えており、家族等に直接連絡をすることが多く、馴染みの関係の継続が利用者の心の支えにもなっている。地域からの利用者には友人が良く面会に来て	

自己評価	外部評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) 仲の良い方、気の合う方は隣同士の席で過ごしてもらっている。また、互いの部屋へ行き来して話しに話していたり、お互いに声を掛け合ったりしている方もいる。	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) サービス終了後は、関係を継続することは、ほとんど無く支援出来ていない。要望があれば支援している方もいる程度。	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 日々の暮らしの中での何気ない会話や、サービス計画書作成時においては、都度意向を聞き出している。困難な方については、表情仕草から読み取る努力は行っている。 (外部評価) 軽い介護度の利用者が増え、起床や食事時間の変更、パン食の希望など、思いや意向を言われる利用者が多くなっている。職員はコミュニケーションの取り方や支援方法を考えるようになり、利用者の今までの生活や意向に沿う支援を目指して支援している。思いの把握が困難な利用者には声かけをし、表情やしぐさを観察しながらくみ取るように心がけている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) サービス利用契約時において、これまでの暮らしの経緯についての情報は得ているが、利用後においても本人との会話や家族からの情報によって、更に把握に努めている。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) 日々のケアの中で現状の把握に努めており、かつ、アセスメントツールを使い、サービス計画書作成時において検討している。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	(自己評価) 毎月のサービス担当者会議の場において、チームスタッフ、家族の参加もしてもらい検討作成している。一方の意見ではなく、幅広い視点からの意見アイデアを反映して現状に即した介護計画を作成している。 (外部評価) 家族の要望を書面で提出してもらい、家族の意見を介護計画に反映できるよう検討し、月1回のユニット会で話し合い作成している。生活記録には介護計画と実施内容を明記し、利用者の言葉を残すよう心がけており、モニタリングや見直しを行い、次の支援に活かしている。ユニットの利用者全員の計画を一覧表にして、職員が日々目を通して支援や生活記録記入時に意識できるよう工夫している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	(自己評価) 一人ひとりの生活記録をタイムリーに記し、いつもと違った様子があれば直ぐに気付くように記録を行なっている。	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にもまれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	(自己評価) 事業所にて可能な限りの支援は行えているが、それ以上のサービスは今のところ行えていない。	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	(自己評価) 近隣の中学校との定期的な交流はあるものの、他の地域資源との協働はあまり出来ていないように感じている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に し、納得が得られたかかりつけ医と事業所 の関係を築きながら、適切な医療を受けら れるように支援している	(自己評価) 母体の病院がかかりつけ医となっており、家族へは説明と 理解を得て了解のもと、受診支援を行なっている。毎週1 回の往診にて診てもらっている。またそれ以外において も、異変があった場合は直ぐ受診できる体勢が出来てい る。 (外部評価) 利用者の希望するかかりつけ医を受診することができる。 ほとんどの利用者は母体病院の協力医をかかりつけ医とし ている。月1回協力医の往診があり、利用者の健康管理を している。病院での受診が必要な場合は、家族が同行支援 することが多い。また、家族に利用者の身体状況を把握し てもらうために、必ず節目で家族に同行して受診しても らっている。受診時には医師から利用者の状態等を分かり やすく説明してもらい、家族に納得して把握してもらうよ うにしている。往診や事業所で受診介助を行った場合の報 告は、毎月家族に送付する日常生活報告書で行っている。	
31		○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた 情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問 看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が 適切な受診や看護を受けられるように支援 している	(自己評価) 専門的な看護職員は居ないが、介護職としての看護職員は おり、異変等あれば相談している。母体の病院とは密接に 連携しており、適切な支援体制は整っている。	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療でき るように、また、できるだけ早期に退院で きるように、病院関係者との情報交換や相 談に努めている。または、そうした場合に 備えて病院関係者との関係づくりを行っ ている。	(自己評価) 母体の病院に入院する場合がほとんどである為、入院した 場合は細かな情報交換や連携は出来ている。	
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支 援 重度化した場合や終末期のあり方につい て、早い段階から本人・家族等と話し合 いを行い、事業所でできることを十分に説明 しながら方針を共有し、地域の関係者と共 にチームで支援に取り組んでいる	(自己評価) 重度化した場合は速やかに母体の病院に入院加療しても らっている。終末期ケアを行う体勢が出来てないのが実際 であり、職員の教育、医療的バックアップを含めた支援体 勢が出来ていない段階であるが、家族等関係者とは、施設 の方針について理解して下さっている。 (外部評価) 事業所ではターミナルケアを行わない方針であることを、 利用開始前に利用者や家族に説明している。また、状態の 変化があった場合には、その都度家族に説明している。利 用者が重い介護度になると、他施設への転居などを家族に 説明し、入所申し込みなどの支援をしている。利用者の病 状が悪化した場合は、母体病院等へ入院してもらっている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) AEDを使用した急変時応急手当の訓練を消防職員の指導のもと実施している。また、勉強会や各研修にて学ぶ機会もあり、実践力を身につける努力をしている。	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 消防避難訓練を年2回実施しており、風水害時における避難訓練も年1回実施している。地域住民を招いての消防避難訓練も行なった。ただ、具体的協力体制は今のところ築けていない。 (外部評価) 年2回避難訓練を実施しており、地域住民や消防団員に参加してもらい一緒に訓練をしている。消防団員などから避難経路のアドバイスや訓練の評価をしてもらい、新たに非常口を設置するなど改善に活かしている。地域の消防団は協力的であり、緊急時に迅速に連絡できるよう消防団員の名簿をもらったり、市消防本部への協力も呼びかけてくれたりしている。事業所では地域住民にも声をかけ、救命講習と事業所見学を実施しており、参加者から「よく分かる」との声をもらい、管理者は今後も継続したいと考えている。また、水やパンなどの備蓄品を用意し、災害時に備えている。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) 言葉掛けには注意を払い尊厳を持って話しかけている。ただ、時には感情的になってしまい、機嫌を損ねる言葉やトーンの場合もあるが、その後はさり気なくフォローしている。 (外部評価) 職員は利用者と長くつきあい、家族のような馴染みの関係を築いて行けるよう支援するうえでも、接し方には気を付けているが、職員間に格差があり十分な対応ができていない場合がある。ユニットリーダーは、職員が着替えや排泄など声かけをせず支援している場合は、その都度注意するなど指導している。研修だけでは利用者の尊厳の確保やプライバシーの配慮など、職員に身に付くのが難しいこともあり、管理者はできる限りユニットに入って指導するよう努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) 意思表示出来ない方に対しても、その時の表情や仕草から読み取る努力をしている。自立されている方に対しては、些細な事でも話を聴き耳を傾けている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 利用者の生活ペースにあった暮らしを優先にケアを心掛けているが、意思表示出来ない方に対しては、職員の都合や業務優先になり、その人らしさを無視してケアしている事も正直ある。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) 外出時や行事の時は、季節、気候にあった服装で出掛けており、家族が新たに持ってきた服などは着てもらっている。	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 出来る能力を有する方とは、一緒に食事の準備や片付けを行い食事時においては、職員と利用者が同じテーブルに座り、同じ物を一緒に食べている。 (外部評価) 献立は利用者の好きなものや季節の食材を取り入れ、ユニット毎に作成し調理している。おやつも週2～3回は手作りしている。畑で採れた野菜を使ったりオードブルを取ったり、鯖（サワラ）の解体ショーを行うなど、利用者が目で見えて食事を楽しむことや、新鮮でおいしい食事ができるよう工夫をしている。利用者と職員が会話を楽しみながら、同じ食事をしている。調査当日には、里芋の皮を剥いたり食器を洗ったりする利用者の姿が見られ、味付けや食器洗いなど利用者にとできることを手伝ってもらっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 水分チェック表にて水分量の把握をしている。自分の好まれる食べ物を希望される方については、家族の協力のもと支援している。食事形態もその人その人の状態に合わせてミキサー食にしたり、お茶にトロミをつけたりとしている。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 毎食後、口腔ケアを行い義歯装着の方については毎晩洗浄液につけて清潔の保持に努めたり、うがい液にてうがいをし口腔状態の健康維持に努めている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	(自己評価) 排泄チェック表にて排泄パターンの把握に努め、タイミングよくトイレ案内している。トイレでの排泄が困難な方については、居室ベット上でのおむつ交換を行っている。 (外部評価) 時間を見てトイレ誘導を行い、トイレでの排泄ができるよう支援している。夜間はポータブルトイレを使用している利用者もあり、身体状況に合わせた排泄の支援を行っている。利用者の排便コントロールは難しく、運動や食事、お茶などを活用しながら、自然な排泄ができるよう努めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	(自己評価) 慢性的に便秘気味の方が多く、全員にセンナ茶の飲用をすすめ便秘予防に取り組んでいる。また、豆乳など便通を良くする飲み物を飲んでもらい出来るだけ自然排便を促している。	
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	(自己評価) 入浴は毎日午後から支援している。頑なに拒否される方には、決して無理強いせず穏やかに声がけし、何日も入浴されてない方には、家族から電話を通じ誘ってもらったりして工夫している。 (外部評価) 週4日を基本として入浴することができる。利用者の希望に応じて、毎日入浴している利用者もいる。気持ちよく入浴できるよう職員は声かけには気を付け、入浴剤を使用して利用者を楽しんでもらせるよう工夫している。重度で湯船に浸かれない利用者は、シャワー浴をしながら足浴し、寒くならないよう配慮している。入浴が苦手な利用者には、本人が入浴を好まない意向を家族にも説明し、汚れやすいところは清拭するなど清潔保持に努めている。また、日中にリビングでテレビを見ながら足浴とフットマッサージを行っており、リラックスできる時間を過ごせるよう工夫している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	(自己評価) 日中においても、その人の体調、状態に合わせ居室にて臥床してもらっている。夜間寝付きが悪い方もおられリビングでテレビをみて過ごしてもらったりしている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 薬の説明書を個人毎にファイリングし、いつでも目にする事が出来るようになっている。服薬時は必ず3回の確認を徹底して声出し確認している。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) 家事仕事が得意な方には、食事の下ごしらえをしたり、テレビを観ることが好きな方はいつでも鑑賞出来るようにしている。意思表示が困難な方についても、音楽を流したりして気分転換を図っている。	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) 十分な支援は行えていない。重度の方が多く外出には多くの危険が伴う為、思うような支援は出来ていない。家族と出かける方はおられ、一緒に楽しい時間を過ごされている。 (外部評価) 日頃から散歩したり中庭での外気浴をするなど、利用者が外出できる機会を設けている。関連施設の車両を借りることができ、利用者全員でドライブや外食に出かけられるよう支援している。天気の良い日には、お弁当を持って公園に出かけることもある。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 自身で金銭管理出来る方は居らず、所持している方は居ない。ただ、出張パン屋が定期的に来荘した時は、自分でお金を払ってもらい好きな物を買ってもらっている。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 携帯電話で家族と日常的に会話している方もいる。希望があれば施設の電話にて連絡をとってもらっている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 温度湿度は3回の測定を行い、空気洗浄加湿器を使い調整している。共有スペースには季節ごとの飾り付けを行い、季節感を感じてもらっている。 (外部評価) 玄関やリビングには生け花が飾られ、自然の華やかさと季節を感じることができる。利用者が気兼ねなく休めるように、いすやソファの配置には気を付けている。こたつを置いているユニットには、夜間に利用者同士がおしゃべりを楽しみながら寝るまでの時間を過ごすことがある。リビングにはカラオケ機材があり、毎日歌うことを楽しみとしている利用者もいる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	(自己評価) 至る所にソファを配置し、休めるよう工夫している。仲の良い方同士で互いのお部屋を行き来して過ごされたりしてる。	
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 馴染みの物品を持ち込んでもらい、使い慣れたタンス、家族の写真等快適に過ごしてもらえよう工夫している。 (外部評価) ベッドは利用者の身体状況に合わせて、家具調ベッドとギャッジベッドとを使い分けている。利用者は自宅から馴染みの家具を持ち込み、好みの配置をして利用者の思い思いの空間づくりをしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	(自己評価) 廊下、トイレ、浴室には手すりを配置し、床面バリアフリーで安全配慮している。部屋にはひと目で解るよう写真つきの名表で記している。	